

1. 平成28年度 営業概況について

平成28年度の観光業界は、航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加、消費税免税制度の拡充等の要因により、年間の訪日旅客数が2,403万人に達する等、訪日旅行の躍進が続きました。

一方、国内旅行においては、昨年3月の北海道新幹線開業や、4月に発生した熊本地震の影響、その後の「九州ふっこう割」等による地域的な変動があったものの、総じて低調な動きとなりました。

立山黒部アルペンルートにおきましては、前年度ほぼ東日本大震災前の水準まで回復した入り込み客数からどれだけ上乗せできるかを課題に営業を再開しました。

「立山・雪の大谷ウォーク」の人気に支えられ、4月の入り込み客数が過去最高の112千人を記録する等、順調な滑り出しとなりましたが、5～6月は、少雪による4月への前倒し傾向と、前年度の善光寺ご開帳に連動した旅客増加の反動等により伸び悩みました。7月以降は、首都圏を中心とした積極的な広告宣伝活動と、新たに制定された8月11日の「山の日」に関連したイベントの開催等により盛り上がりを見せたものの、秋期には度重なる台風や長雨が影響し、初冬期も積雪に恵まれなかったため、営業終了まで低調に推移いたしました。

旅客の内訳では、国内旅客の入り込み人員が、北陸新幹線開業2年目に入りメディア露出が大幅に減少したことに加え、前年度秋期にあったシルバーウィークの反動等により、紅葉時期も低調となった結果、680千人（対前年87%、102千人減）となりました。

一方、訪日旅客は、団体客が6月以降、主要国台湾の景気低迷や円高による割高感が重しとなり鈍い動きとなりましたが、個人客は、JRの訪日客向け企画切符「立山黒部オプション券」等の発売による後押しもあり、引き続き大幅な伸びとなり、訪日旅客全体では、過去最高の242千人（対前年113%、27千人増）で、全入り込み人員の3割近くを占めるまでに至りました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計922千人（対前年92%、75千人減）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが476千人（対前年92%）、大町入り込みが446千人（対前年93%）となりました。

●アルペンルート入込人員実績

(単位：人)	平成27年度		平成28年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
入込合計	997,000	110%	922,000	△75,000	92%
富山入込	517,000	109%	476,000	△41,000	92%
大町入込	480,000	110%	446,000	△34,000	93%
<国内・訪日内訳>					
国内入込人員	782,000	109%	680,000	△102,000	87%
個人	579,300	116%	507,700	△71,600	88%
団体	202,700	92%	172,300	△30,400	85%
訪日入込人員	215,000	112%	242,000	27,000	113%
台湾	131,800	101%	138,700	6,900	105%
韓国	16,000	159%	17,600	1,600	110%
香港	25,400	140%	28,500	3,100	112%
中国	3,000	190%	4,600	1,600	153%
タイ	16,800	104%	18,800	2,000	112%
その他	21,700	145%	33,700	12,000	155%

※訪日入込人員は個人+団体の総数

※表示単位未満を四捨五入により端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

●ホテル宿泊人員実績（立山貫光ターミナル株）

(単位：人)	平成27年度		平成28年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
ホテル立山	37,000	111%	35,000	△2,000	95%
弥陀ヶ原ホテル	18,300	117%	18,600	300	101%
宇奈月国際ホテル	29,400	122%	23,500	△5,900	80%

2. 決算の概要について

●連結決算の概要 (連結対象会社：立山貫光ターミナル(株)・立山黒部サービス(株))

**訪日客は順調に増加したものの、
国内客が秋期の天候不順等により減少し、減収減益**

(単位：百万円)

会社名	連結			立山黒部貫光(株)			立山貫光ターミナル(株)			立山黒部サービス(株)		
	27年度 (百万円)	28年度 (百万円)	前年度比 %									
営業収益												
運輸事業				3,838	3,658	95%						
ホテル事業							786	769	98%			
ホテル立山							395	404	102%			
弥陀ヶ原ホテル							515	413	80%			
宇奈月国際ホテル							1,696	1,587	94%			
ホテル事業計												
付帯事業				751	721	96%	1,235	1,162	94%	283	277	98%
営業収益計	7,307	6,918	95%	4,589	4,380	95%	2,932	2,749	94%	283	277	98%
営業費	6,790	6,757	100%	4,228	4,267	101%	2,808	2,732	97%	268	266	99%
営業利益	516	160	31%	360	113	32%	124	17	14%	15	11	71%
営業外損益	△9	26	—	△10	23	—	7	9	121%	0	1	137%
経常利益	507	186	37%	350	136	39%	131	26	20%	16	12	75%
特別利益	1	4	297%	0	4	—	0	—	—	1	0	7%
特別損失	注1 94	2	3%	68	0	1%	26	2	8%	0	0	199%
税引前当期純利益	414	187	45%	282	140	50%	105	24	23%	17	11	67%
法人税、住民税及び事業税	80	53	66%	48	36	75%	29	14	48%	3	3	89%
法人税等調整額	注2 △323	1	—	△307	9	—	△17	△7	44%	2	0	14%
当期純利益	656	133	20%	541	95	18%	94	18	20%	11	8	70%
非支配株主に帰属する利益	28	6	21%									
親会社株主に帰属する利益	628	127	20%									
総資産	12,568	12,744	101%	11,125	11,385	102%	2,119	2,026	96%	296	296	100%
純資産	7,462	7,502	101%	7,122	7,113	100%	1,107	1,142	103%	181	189	105%

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨て処理しております。

注1	減損損失	92
	固定資産除却損	2

注2	業績回復に伴う、繰延税金資産計上の増加
----	---------------------